



三洋貿易株式会社
(証券コード：3176)
2019年9月期
決算説明資料

2019年11月26日

2019年9月期実績

2019年9月期TOPICS

VISION2023と業績見通し

10期連続の経常増益達成、過去最高益更新

VISION2023の達成に向け、順調なスタート

**機械資材セグメントで自動車関連が引続き好調、
バイオマス大型案件実現**

前期比で通期10円増配、年間配当は74円

連結実績表

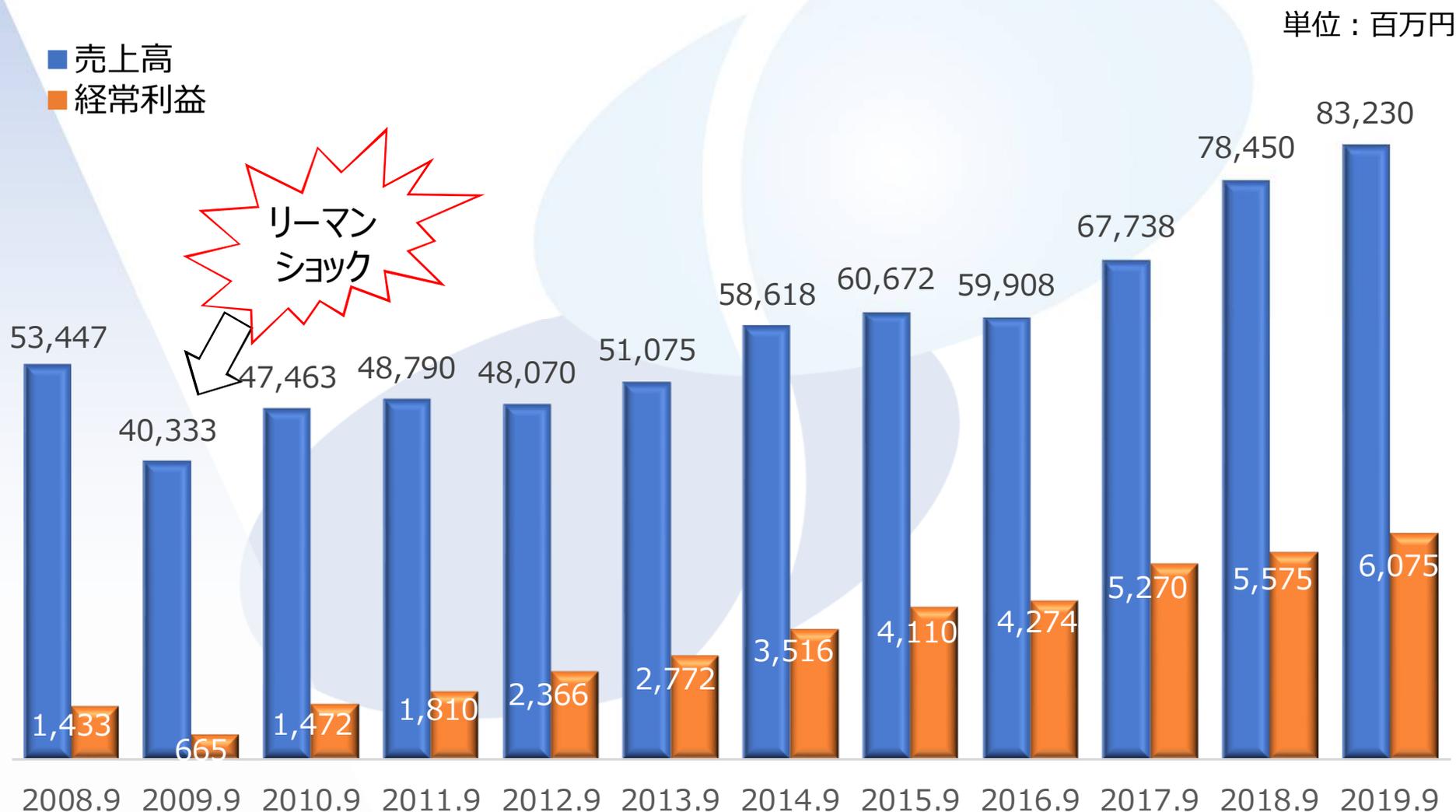
2019年9月期実績

	2018年 9月期	2019年9月期				単位：百万円
	金額	金額	前期比 増減率	構成比	修正計画 (5月13日開示)	計画比
売上高	78,450	83,230	+6.1%	100.0%	86,000	▲3.2%
売上総利益	13,410	14,883	+11.0%	17.9%	15,400	▲3.4%
<売上総利益率>	17.1%	17.9%	-	-	-	-
販売費及び 一般管理費	8,147	9,011	+10.6%	10.8%	9,500	▲5.1%
営業利益	5,263	5,871	+11.6%	7.1%	5,900	▲0.5%
経常利益	5,575	6,075	+9.0%	7.3%	6,200	▲2.0%
<経常利益率>	7.1%	7.3%	-	-	-	-
親会社株主に 帰属する純利益	3,635	4,018	+10.5%	4.8%	4,200	▲4.3%
EPS (円)	253.99	280.73	-	-	293.38	-
配当 (円)	64.0	74.0	-	-	74.0	-

長期業績推移

2019年9月期実績

2010年9月期以降、10期連続の経常増益を達成
過去10年間で売上高2.1倍、経常利益は9.1倍に成長



セグメント別 売上高・営業利益

2019年9月期実績

機械資材

単位：百万円

売上高



営業利益



金額

前期比増減率

売上高

32,993

+18.0%

営業利益

4,039

+29.2%

自動車内装用部品を中心とした産業資材事業が業績を牽引

5月には北海道で大型バイオマス熱電併給施設が本格稼働

セグメント別 売上高・営業利益

2019年9月期実績

化成品

単位：百万円

売上高

営業利益



金額

前期比増減率

売上高

31,092

+1.3%

営業利益

1,577

▲20.2%

ゴムは仕入れ価格の上昇や米中貿易摩擦が業績に影響

化学品は中国の環境規制に起因した塗料・高付加価値商材が低調

セグメント別 売上高・営業利益

2019年9月期実績

海外子会社

単位：百万円

売上高

営業利益



金額

前期比増減率

売上高

18,950

▲3.4%

営業利益

880

+0.1%

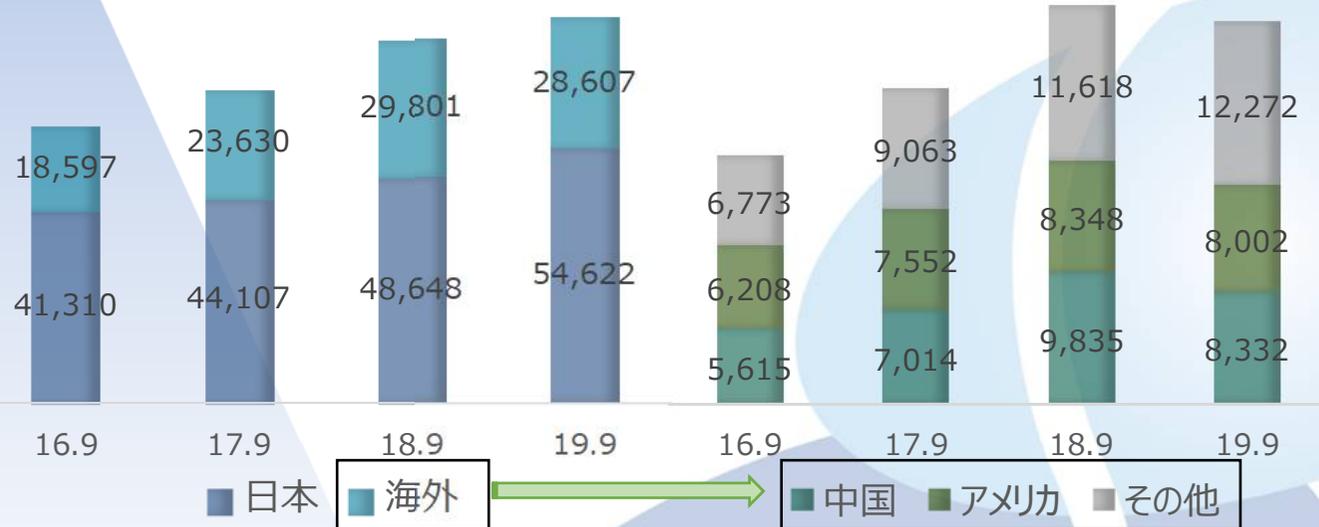
中国・東南アジアでは自動車内装用部品が好調に推移

米国では米中貿易摩擦がフィルム関連やゴムに影響

地域別売上

2019年9月期実績

単位：百万円



2019年9月期 地域別売上高			
	金額	前期比増減率	構成比
日本	54,622	+12.3%	65.6%
中国	8,332	▲15.3%	10.0%
アメリカ	8,002	▲4.1%	9.6%
その他	12,272	+5.6%	14.7%
合計	83,230	+6.1%	100.0%

変動要因

日本

- 自動車関連ビジネスの好調に加え、掘削関連ビジネスが好調

中国

- 自動車内装部品は堅調に推移したが、一過性の売上の反動で減収

アメリカ

- フィルム関連やゴムが減少

その他

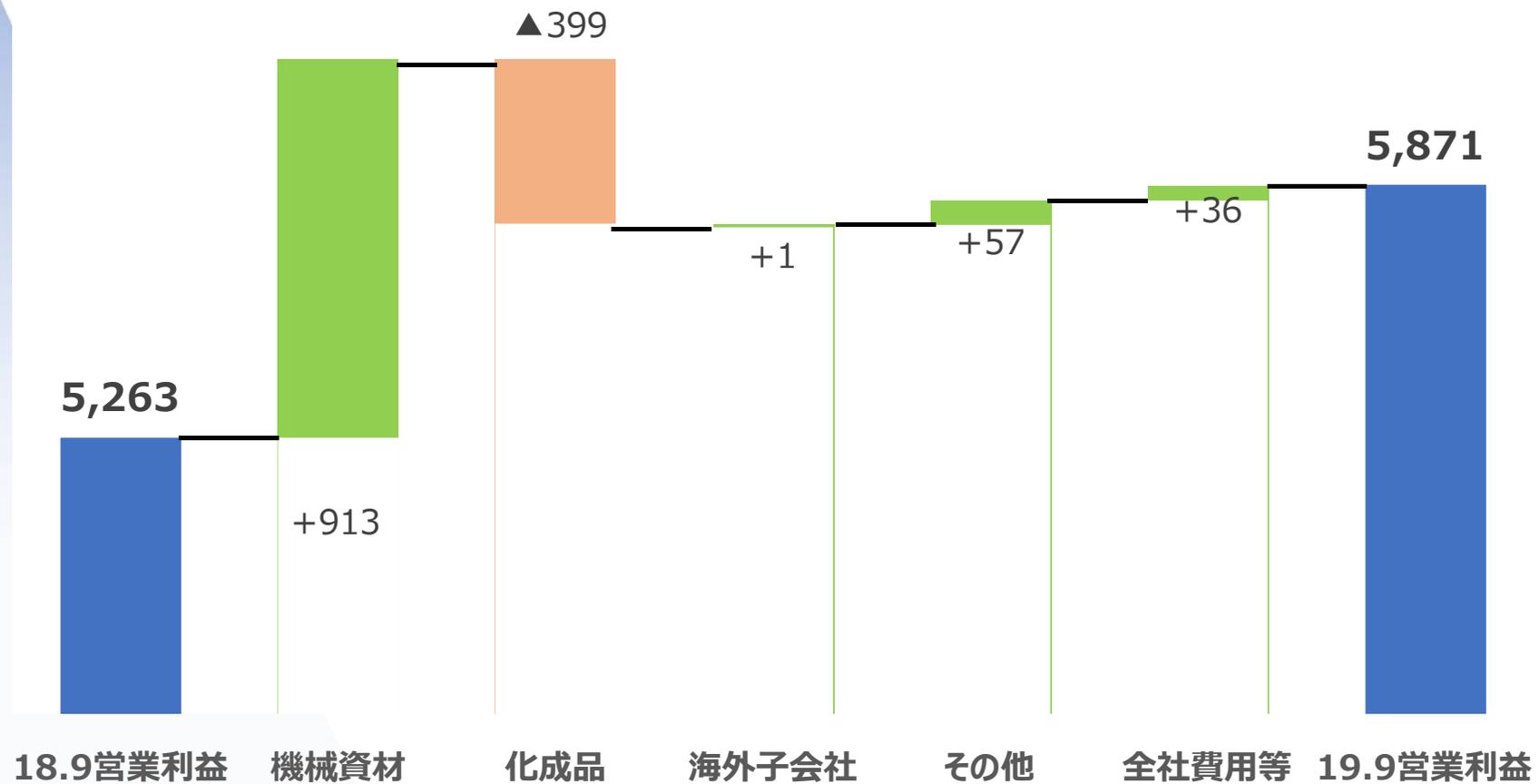
- タイ、シンガポールなどのアセアン地区に加え、中南米(メキシコ)向けが好調に推移

営業利益増減要因分析

2019年9月期実績

機械資材の好調により営業 2 ケタ増益を達成

単位：百万円



VISION2023 の達成目標

項目	目標	実績
連結経常利益	75億円	60.7億円 (19.9実績)
ROE	15%	14.5% (19.9実績)
海外拠点成長率 (売上高)	10%/年率	10.0% (過去2年平均)

2019年9月期実績

2019年9月期TOPICS

VISION2023と業績見通し

企業理念を社内に浸透させることを目的として、国内及び海外拠点全従業員を対象とした企業理念研修会を複数回にわたって実施

< 経営理念 再構築の目的 >

- * 「経営理念」の位置づけ再考
- * 「新長期計画」の起点
- * 30年後(100周年)を見据えた視点

<スローガンロゴ>



- ◆ チャレンジする能動的・積極的な姿勢、向上心を表す
- ◆ スローガンのもと、挑戦し続ける「未来」を表現
- ◆ コーポレートカラーをベースにし、会社ロゴと調和

理念体系図

スローガン (Slogan)

最適解への挑戦

~ Challenging ourselves for the BEST solution ~



長期経営計画VISION2023は「人材への投資」を基本戦略の一つとしている
 当社では、2019年9月期より「カエルカレッジ」をスタートし、研修体系を整理
 また、海外研修生制度、短期留学制度等により、グローバルに活躍できる人材育成を目指す

カエルカレッジの研修体系

2019年9月期	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
必修科目	新入社員から、若手、管理職、取締役、シニア層まで全階層での研修を定期的実施											
臨時必修科目 経営理念浸透研修	国内及び海外拠点全従業員を対象とした企業理念研修会を複数回にわたって実施											
選択科目	73期よりスタート。任意参加セミナーをプロスポーツ監督経験者や社内のスペシャリストを講師として複数回実施											
グローバル	← 海外研修生 →											
2020年9月期	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
必修科目	全階層での研修を定期的実施、さらに海外現地社員の日本研修も推進											
選択科目	バイオマス発電会社社長や社内のスペシャリストを講師としたセミナーをすでに実施済み。今後も、NPO団体から講師を招聘し多様性に関するセミナー等を実施予定											
グローバル	← 海外研修生 → ← NY短期留学 → ← NY短期留学 → ← NY短期留学 → ← NY短期留学 →											

カエルカレッジの目的

社員の心・技・体を育てる
 会社の発展を実現
 「最適解」の具現化



「人材への投資」を通じて従業員の就業環境の向上（ESGのS）を追求していく

低分子量PTFE微粉末ワックスの 販売開始

2020年4月よりストックホルム条約（POPs条約）によってPFOAの輸入、製造、使用が制限される。

当社はPFOAを大幅に低減した、低分子量PTFE微粉末ワックス（米Shamrock社）の在庫販売を開始。来年1月に在庫も含めた完全切り替えを完了予定

※PFOA

パーフルオロオクタン酸の略。有機フッ素化合物のひとつで、撥水、撥油性があり、難分解性で安定している事から、コーティング剤や界面活性剤、表面処理剤として様々な製品に使用されてきた。

しかし、その構造的な安定性から、環境中での残留性や生体中の蓄積性が問題視され、世界的な規制の対象となった。



PTFE微粉末ワックス

木質バイオマス発電

＜当社事業の特徴＞

①「国産間伐材」による調達

日本林業の活性化や地産地消という地域振興に貢献

②熱電併給装置の展開

当社が取り扱う「木質ペレットガス化熱電併給装置」は発電時に発生する熱も活用することで高エネルギー効率を実現

③一貫通貫体制

原木の加工から熱電併給システム稼働後のサポートまでに対応



北海道下川町PJ

当社ではバイオマス発電事業やPFOA低減商品の取扱いを通じて、環境の維持（ESGのE）に貢献していく

新規ビジネスの実績

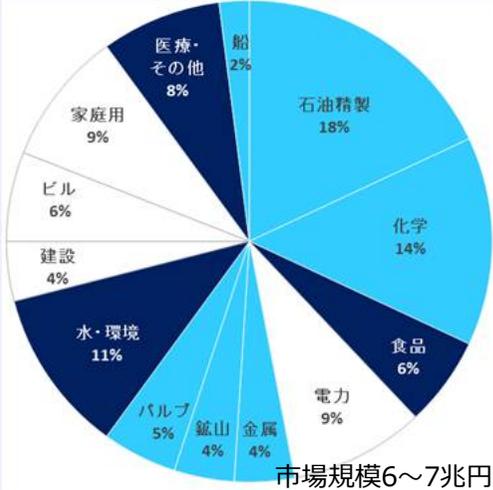
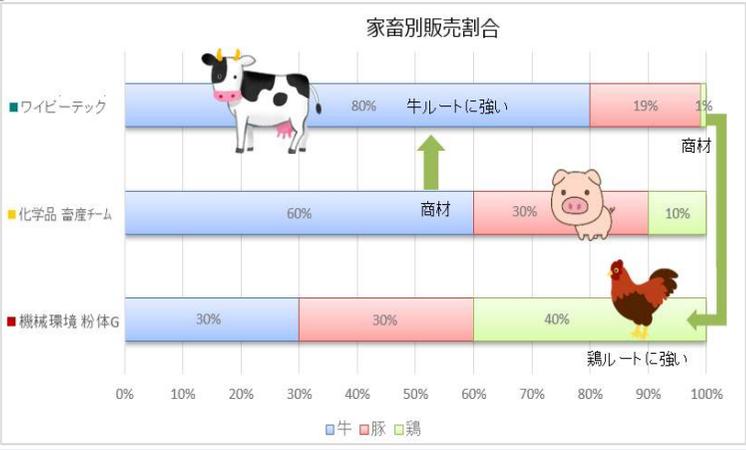
2019年9月期TOPICS

下川町では木材投入以降の過程を自動化する欧州スタイルのシステムを一括して納入



M&A 実績

2019年9月期TOPICS

企業名	新東洋機械工業株式会社 	株式会社ワイピーテック 
譲渡契約日	2019年5月	2019年9月 (取得月は2019年10月)
議決権所有割合	100.0%	100.0%
業務内容	耐蝕ポンプの製造販売及びメンテナンス	機能性飼料原料と飼料添加物の輸入販売
シナジー	<p>当社子会社の三洋古江サイエンス株式会社で展開するマイクロポンプ事業</p> <p>【世界のポンプ市場（用途別）】</p>  <p>市場規模6~7兆円</p> <p>■三洋古江サイエンス ■新東洋機械工業</p>	<p>当社機械環境の粉体事業および化学品事業 部畜産事業</p> <p>シナジー創出</p>  <p>家畜別販売割合</p> <p>■ワイピーテック ■化学品 畜産チーム ■機械環境 粉体G</p> <p>■牛 ■豚 ■鶏</p>

2019年9月期実績

2019年9月期TOPICS

VISION2023と業績見通し

当社計画の建付

VISION2023と業績見通し

当社は長期経営計画として2023年を最終年度としたVISION2023のマイルストーンとして、単年度計画と2カ年計画の2つを策定し、計画達成を目指しております。

	19.9 実績	20.9 計画	21.9 計画	22.9 計画	23.9 計画
単年度計画	単年計画	単年計画	単年計画	単年計画	単年計画
中期経営計画		2カ年計画		2カ年計画	
長期経営計画	VISION2023				
連結経常利益	60.7億円	62億円	67億円	—	75億円

中期経営計画

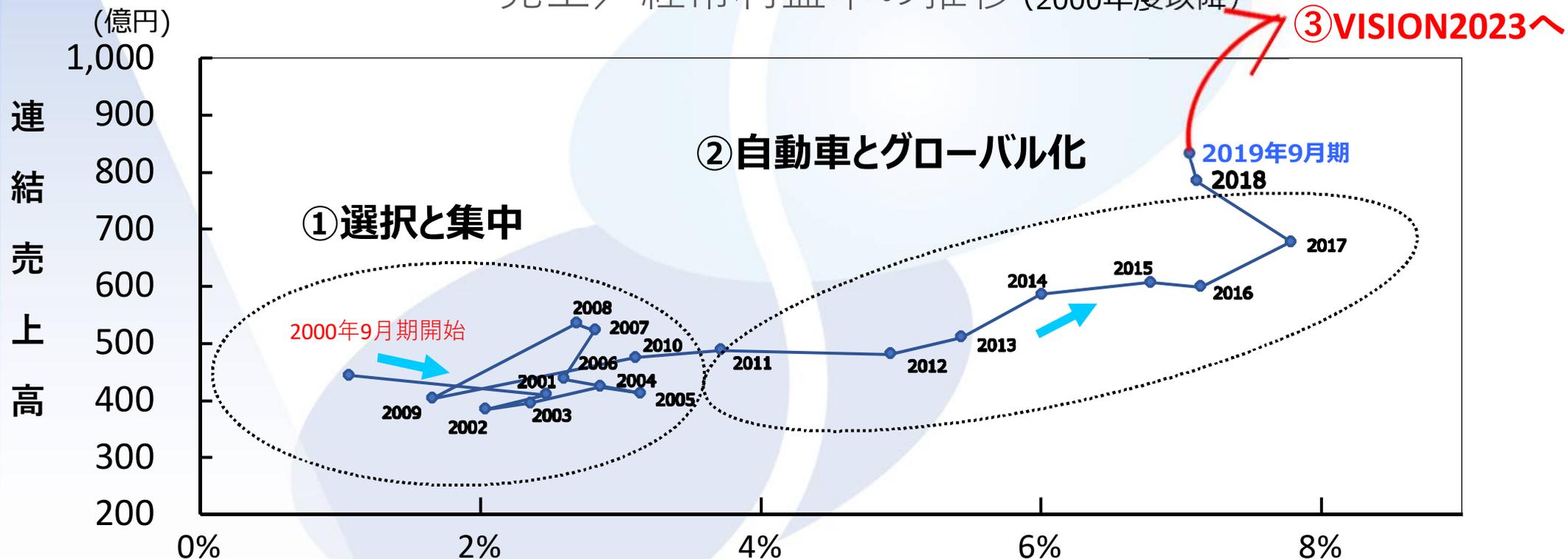
VISION2023と業績見通し

単位：百万円

	2019年9月期実績			2020年9月期予想			2021年9月期予想		
	金額	前期比	構成比	金額	前期比	構成比	金額	前期比	構成比
売上高	83,230	6.1%	100.0%	94,500	13.5%	100.0%	102,000	7.9%	100.0%
売上総利益	14,883	11.0%	17.9%	16,000	7.5%	16.9%	17,500	9.4%	17.2%
販売費及び一般管理費	9,011	10.6%	10.8%	10,000	11.0%	10.6%	11,000	10.0%	10.8%
営業利益	5,871	11.6%	7.1%	6,000	2.2%	6.3%	6,500	8.3%	6.4%
経常利益	6,075	9.0%	7.3%	6,200	2.0%	6.6%	6,700	8.1%	6.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	4,018	10.5%	4.8%	4,200	4.5%	4.4%	4,500	7.1%	4.4%
EPS (円)	280.73			293.39			314.34		

収益性の改善と規模の拡大を両立。
今後についても収益性を維持し成長を目指す。

売上／経常利益率の推移 (2000年度以降)



①・農水産事業から撤退
・高付加価値工業製品へ

経常利益率

②・自動車関連躍進
・海外拠点網構築

③・新規ビジネスの開拓
・グローバル展開の加速
・新規投資案件の推進

VISION2023の各戦略を初志貫徹することが基本戦略

VISION2023 の基本戦略

基本方針	企業体質の強化	収益基盤の強化
戦略	A.最適解への挑戦	D.事業領域の深化
	B.企業基盤の強化	E.新規ビジネスの開拓
	C.人材への投資	F.グローバル展開の加速
		G.新規投資案件の推進

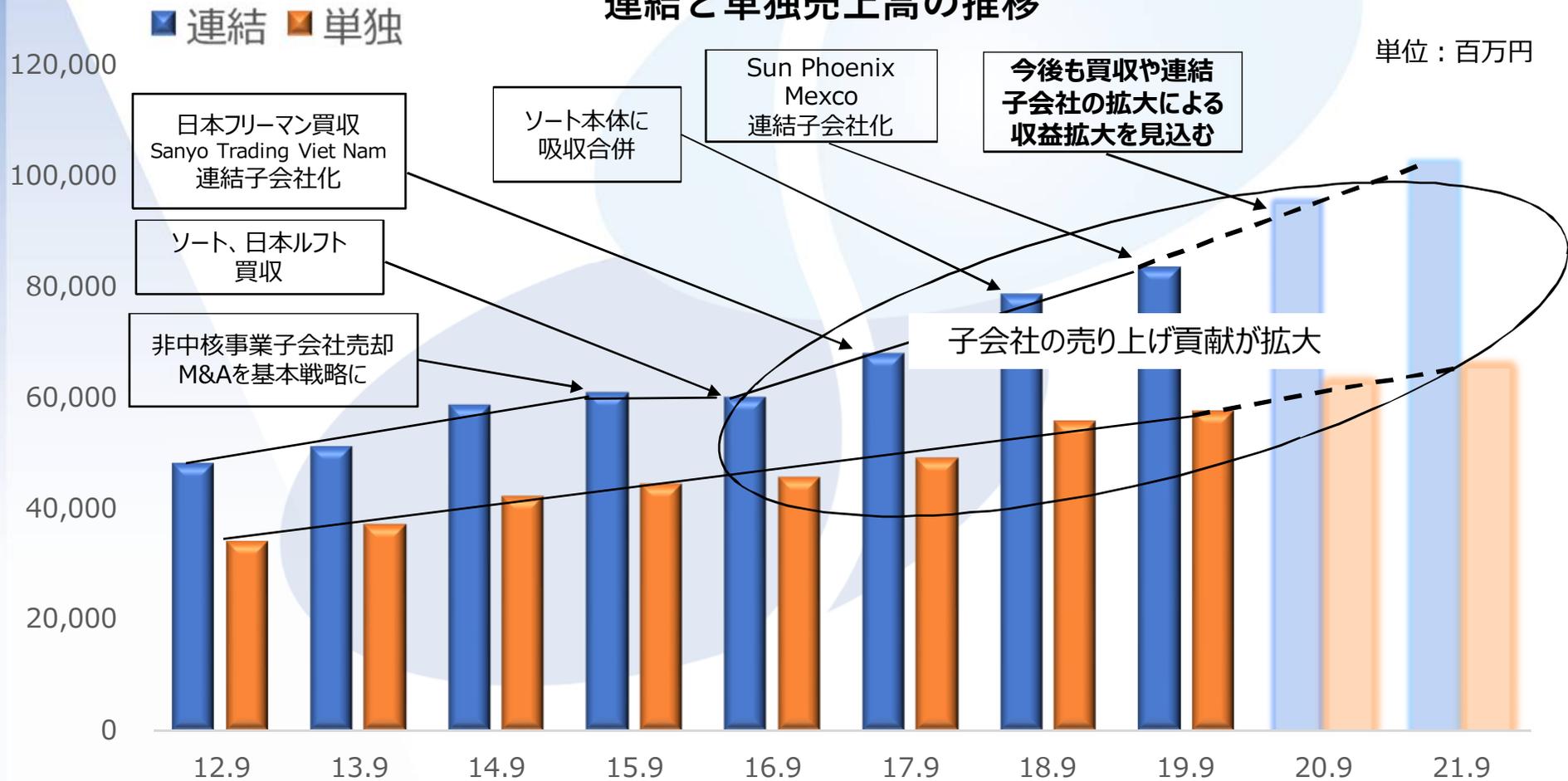
VISION2023の基本戦略にある「収益基盤の強化」の各戦略の概要は以下のとおり

戦略D.事業領域の深化	<ul style="list-style-type: none">・エリア制から市場制に移行（化成品）・自動車メーカー・Tier 1との関係強固
戦略E.新規ビジネスの開拓	<ul style="list-style-type: none">・新規ビジネスのプロジェクトが4年目・44件が進行中（2020年9月期）
戦略F.グローバル展開の加速	<ul style="list-style-type: none">・メキシコ現地法人の連結子会社化（2019年9月期）・化粧品ビジネス（タイ）や自動車部材ビジネス（インド）が進展

戦略G.新規投資案件の推進

2015年度よりM&Aを基本戦略に組み込み、投資先が徐々に収益貢献シナジー、グローバル、成長性を切り口とした投資による収益拡大は今後も継続

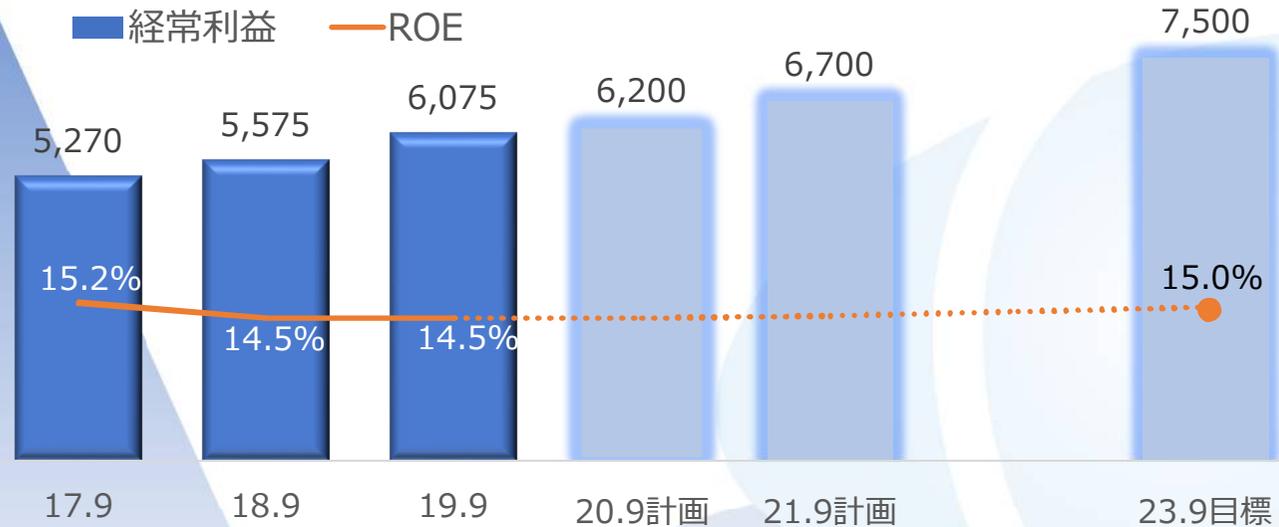
連結と単独売上高の推移



VISION2023 進捗状況

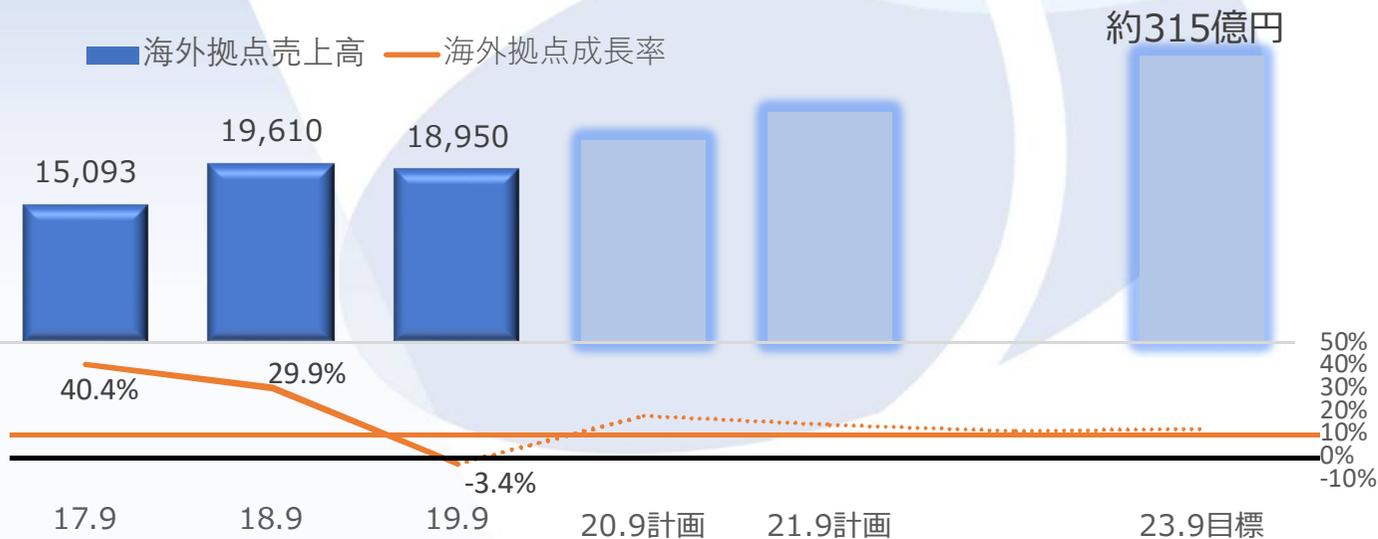
VISION2023と業績見通し

単位：百万円



経常利益は順調に増加しており、2023年度目標のトレンドに入っている。

ROEは目標の15%に近い水準で推移している。



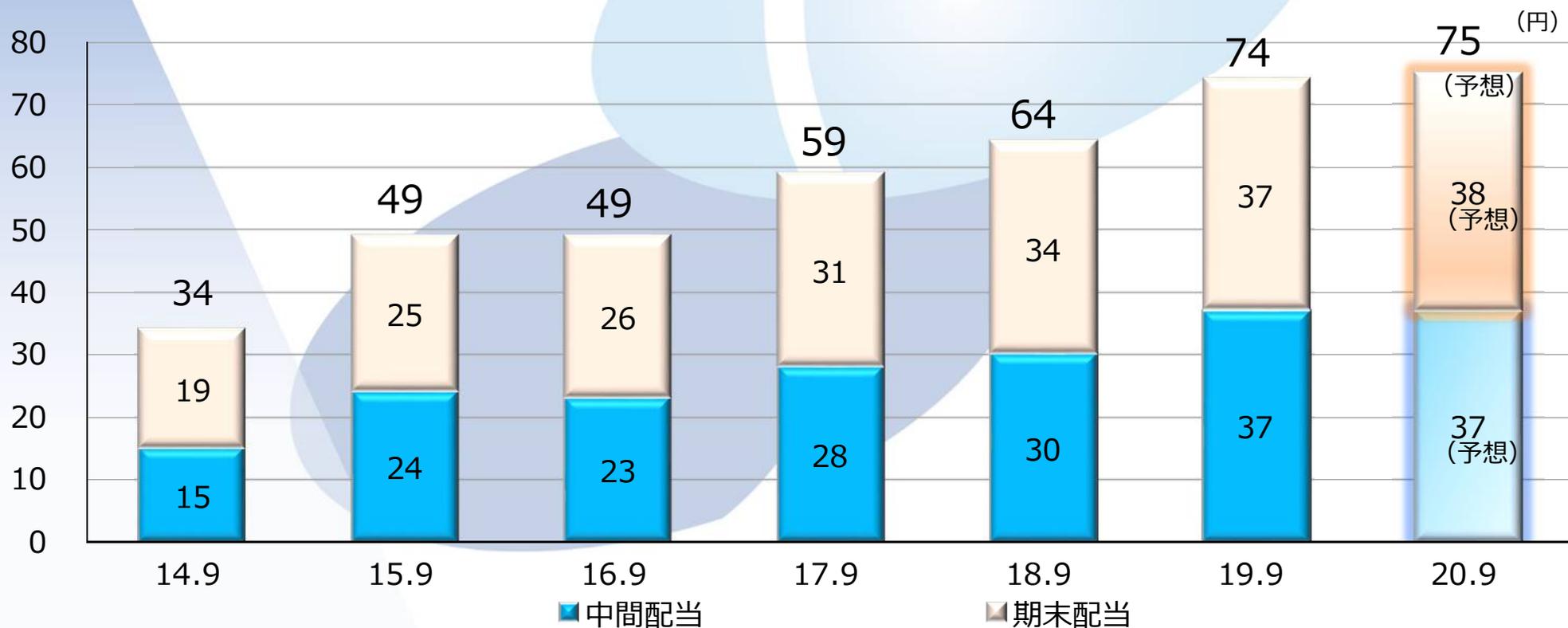
海外拠点売上高成長率は2019年度こそ中国での特需が終わり、一服となったが、米国や東南アジアを中心に2020年度以降の再拡大を目指す。

株主還元

VISION2023と業績見通し

- 今後も、中長期的な「一株当たり配当額」の増額に重点を置き、長期安定的な株主還元を行っていく方針
- 2020年9月期は、前期比で1円の増配予想

	1株あたり配当金		
	2Q末予想	4Q末予想	合計予想
2020年9月期	37円	38円	75円



最適解への挑戦

Challenging ourselves for BEST solution

ご清聴ありがとうございました。

参考資料

連結貸借対照表

参考資料

単位：百万円

	16.9末	17.9末	18.9末	19.9末
現金・預金	3,712	2,635	2,468	4,548
受取手形・売掛金	12,856	15,902	17,133	16,440
商品・製品	7,745	10,456	11,637	12,807
その他流動資産	1,975	2,406	2,673	2,579
有形固定資産	1,984	2,006	2,143	2,195
その他固定資産	4,180	5,580	5,550	5,159
資産合計	32,455	38,987	41,606	43,731
支払手形・買掛金	7,006	8,175	8,357	8,348
短期借入金	795	1,555	1,856	1,239
その他流動負債	2,546	3,144	3,413	3,640
長期借入金	50	100	50	70
その他固定負債	1,101	1,412	1,172	1,089
純資産	20,954	24,600	26,756	29,343
負債純資産合計	32,455	38,987	41,606	43,731
有利子負債比率	2.6%	4.2%	4.6%	3.0%
現預金比率	11.4%	6.8%	5.9%	10.4%
自己資本比率	64.6%	63.1%	64.3%	67.1%

【貸借対照表概要】

- ・売掛債権が減少する一方で現金・預金や商品及び製品を積み増したことで流動資産が増加
- ・減価償却やのれんの償却により固定資産は減少
- ・金融機関からの借り入れが減少したことにより流動負債は減少
- ・利益の積み上げにより純資産は増加

＜ポイント＞

- ・有利子負債は低水準が続く
- ・現預金比率は上昇しているが、10月のM&Aを考慮すると、依然として低水準
- ・自己資本比率は高水準

キャッシュフロー

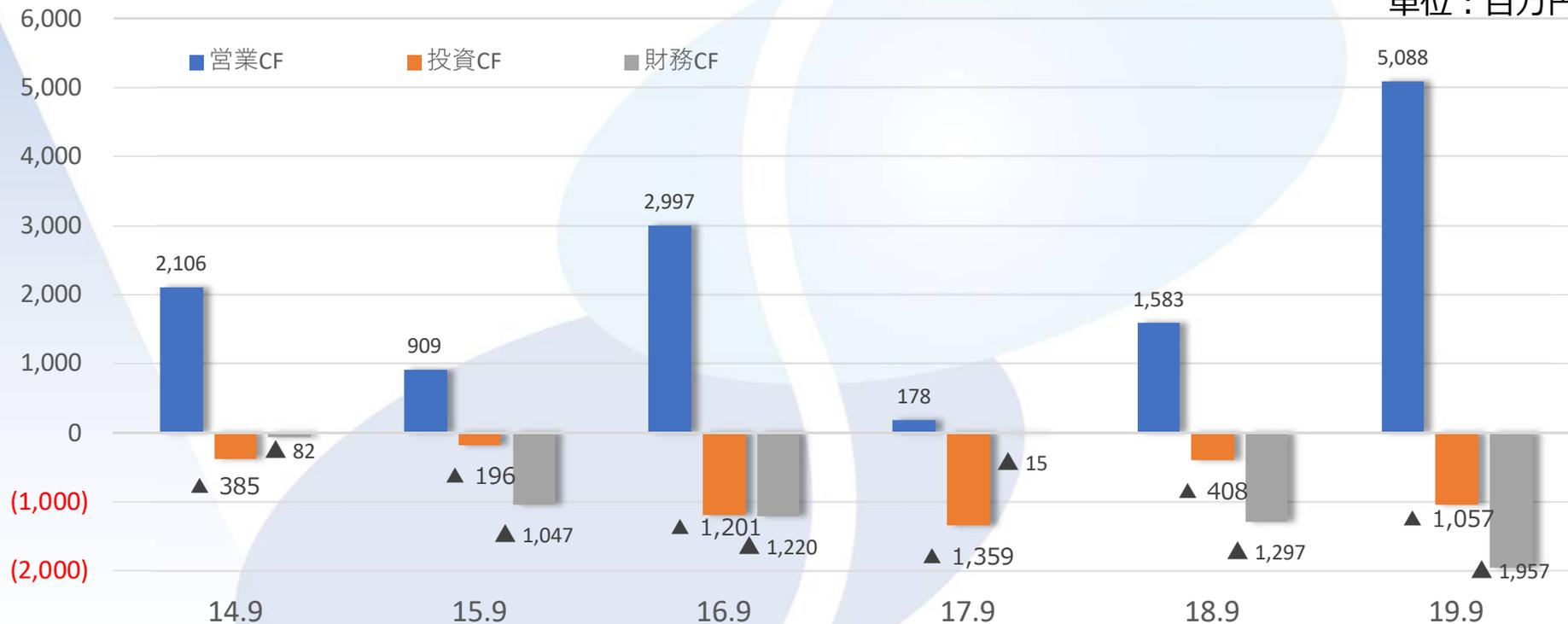
参考資料

営業CF：売上債権や前渡金の減少により前期比で増加

投資CF：関係会社株式の取得や払い込みで減少

財務CF：短期借入金の減少や配当の支払いにより減少

単位：百万円



	14.9	15.9	16.9	17.9	18.9	19.9
キャッシュの増減	1,675	▲289	511	▲1,147	▲133	2,023
キャッシュの期末残高	3,490	3,201	3,712	2,601	2,468	4,548

会社概要

参考資料

会社名	三洋貿易株式会社
英文社名	SANYO TRADING CO., LTD.
設立	1947年5月
代表取締役社長	新谷 正伸
本社所在地	東京都千代田区神田錦町2丁目11番地
事業内容	ゴム、化学品、機械機器、科学機器、自動車部品その他各種商品の輸出入、国内販売を行う 市場ニーズの高い商品を取り扱い、技術的サポートを得意とする
拠点	東京、大阪、名古屋、広島、ニューヨーク、デトロイト、イラプアト(メキシコ)、上海、広州、天津、香港、バンコク、ホーチミン、ハノイ、グルガオン(インド)、ジャカルタ、シンガポール、デュッセルドルフ
売上高	83,230百万円 (2019年9月期、連結ベース)
経常利益	6,075百万円 (2019年9月期、連結ベース)
親株主帰属当期純利益	4,018百万円 (2019年9月期、連結ベース)
従業員数	368人 (2019年9月末、連結ベース)

沿革

参考資料

1947年 5月	旧三井物産の解体に伴い、同社神戸支店有志により神戸を本店として資本金195千円をもって三洋貿易株式会社を設立	2013年 10月	メキシコにSun Phoenix Mexico S.A. de C.Vを設立
1948年 5月	東京支店を設置	10月	東京証券取引所 市場第1部指定
1952年 12月	大阪支店を設置	2014年 8月	インドネシアにPT. Sanyo Trading Indonesiaを設立
1954年 1月	ニューヨーク駐在員事務所を開設(1961年2月 Sanyo Corporation of Americaに改組)	2015年 6月	Bestrade Precision Singapore社を子会社化。7月 Singapore Sanyo Trading Pte. Ltd. に社名変更
1958年 8月	名古屋支店を設置	9月	株式会社ケムインターがコムスタージャパン株式会社を子会社化
1961年 11月	本店を神戸から東京に移転	10月	タイに Sanyo Trading(Thailand) Co., Ltd.を設立
1992年 10月	ホーチミン駐在員事務所を開設(2010年2月 Sanyo Trading(Viet Nam)Co., Ltd.に改組)	2016年 2月	株式会社ソートの子会社化(2018年4月 吸収合併)
2002年 10月	ニューリー・インストルメンツ株式会社を吸収合併	7月	日本ルフト株式会社を子会社化
2003年 6月	バンコク駐在員事務所をSan-Thap International Co.,Ltd.社へ業務移管	2017年 2月	古江サイエンス株式会社を孫会社化(2017年9月 三洋テクノ株式会社と合併。三洋古江サイエンス株式会社に商号変更)
2004年 1月	コスモス商事株式会社を子会社化	3月	ドイツに Sanyo Trading Co., Ltd. Dusseldorf Representative Officeを設立
10月	株式会社東知との共同出資にて、三洋東知(上海)橡膠有限公司を設立	6月	日本フリーマン株式会社を子会社化
2006年 4月	三洋テクノ株式会社を設立	8月	広島事務所を開設
10月	株式会社ケムインターに資本参加し、発行済株式の68.52%を取得(現在 76.85%)	10月	アズロ株式会社を子会社化
2010年 10月	インド駐在員事務所(ニューデリー)開設(2011年12月 Sanyo Trading India Private Ltd.に改組)	2018年 2月	San-Thap International Co., Ltd.を完全子会社化(2018年6月 Sanyo Trading Asia Co., Ltd.に商号変更)
2012年 2月	三洋物産貿易(香港)有限公司を設立	2019年 5月	新東洋機械工業株式会社を子会社化
10月	東京証券取引所 市場第2部に上場	10月	株式会社ワイピーテックを子会社化

事業拠点

参考資料

化成品セグメント

ゴム事業部	化学品事業部
三洋東知（上海） 橡胶 三洋物産貿易（香港）	(株)ワイピーテック (株)ケムインター アズロ(株)

機械資材セグメント

機械・環境事業部	産業資材事業部	科学機器事業部
三洋機械工業(株) コスモス商事(株)	日本フリーマン(株)	三洋古江サイエンス(株) 新東洋機械工業(株) 日本ルフト(株)

※青色は連結対象

駐在員事務所

欧州

Sanyo Trading Co., Ltd.
Dusseldorf Representative Office

海外現地法人セグメント

北米 中南米

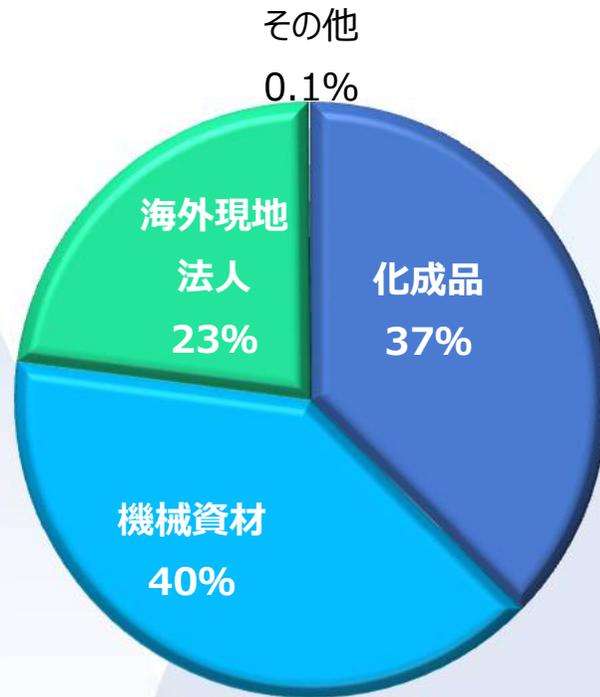


アジア アセアン



- 2012年以前に設立
- 2013年に設立
- 2014年に設立
- 2015年に設立
- 2017年に設立
- ※青色は連結対象

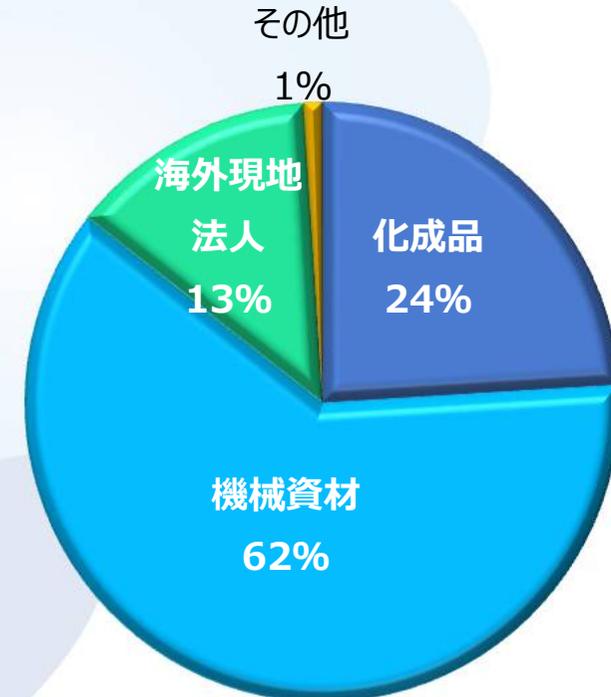
売上高



セグメント別 売上実績			
2019年9月期 (金額単位：百万円)			
化成品	機械資材	海外現地法人	その他
31,092	32,993	18,950	122

(注) 調整前

営業利益



セグメント別 営業利益実績			
2019年9月期 (金額単位：百万円)			
化成品	機械資材	海外現地法人	その他
1,577	4,039	880	65

(注) 調整前

セグメント区分

参考資料

弊社は以下の3つのセグメントを軸として、国内外で様々な事業を展開しております。
※子会社は連結ベース

化成品セグメント

ゴム事業部

化学品事業部

国内子会社

ケムインター、ワイピーテック、アズロ

機械資材セグメント

産業資材事業部

機械環境事業部

科学機器事業部

国内子会社

日本フリーマン、コスモス商事、
三洋機械工業、日本ルフト、

海外現地法人セグメント

アメリカ、メキシコ、中国、タイ、ベトナム

ゴム事業部

主要取扱商材	合成ゴム（ブチルゴム、NBR、シリコンゴム等）、 ゴム補強・充填材（特殊クレー、難燃剤等）、 可塑剤、熱可塑性エラストマー・樹脂等
主要販売先業界	自動車、情報機器等
主要用途	タイヤ、自動車部品（内外装部品、防振ゴム、 ホース、オイルシール等）、OA部品（各種 ロール等）、医療関連商品等
注力分野	海外連携

特徴・強み

- 1952年 日本で最初に合成ゴムを輸入。ゴム産業に係る幅広い商品を取扱う
- 取引先は国内タイヤ、工業用ゴム製品の主要メーカーをほぼ網羅
- 合成ゴム、充填剤等の一般原材料のみならず、特殊ポリマー、配合剤等、多彩な商品を取扱う
- 技術系営業員によるユーザーへの技術支援、共同開発も可能
- 安定供給を維持するためのロジスティクス分野でも実績と経験を保有
- 顧客の海外進出にも対応可能なネットワークを構築

取扱い商材例とその最終製品例



各製造メーカー



主な仕入先	主な取扱商品	特徴
ARLANXEO/Lanxess	各種合成ゴム、可塑剤	世界No.1の合成ゴム総合メーカー、幅広い製品群を安定供給
KaMin	特殊クレー	タイヤ、工業用ゴム部品で性能向上と低コスト化を両立させる戦略商品
ダウ・東レ	シリコンゴム	耐熱性に優れ、OAロール・自動車部品・医療用部品等幅広い用途

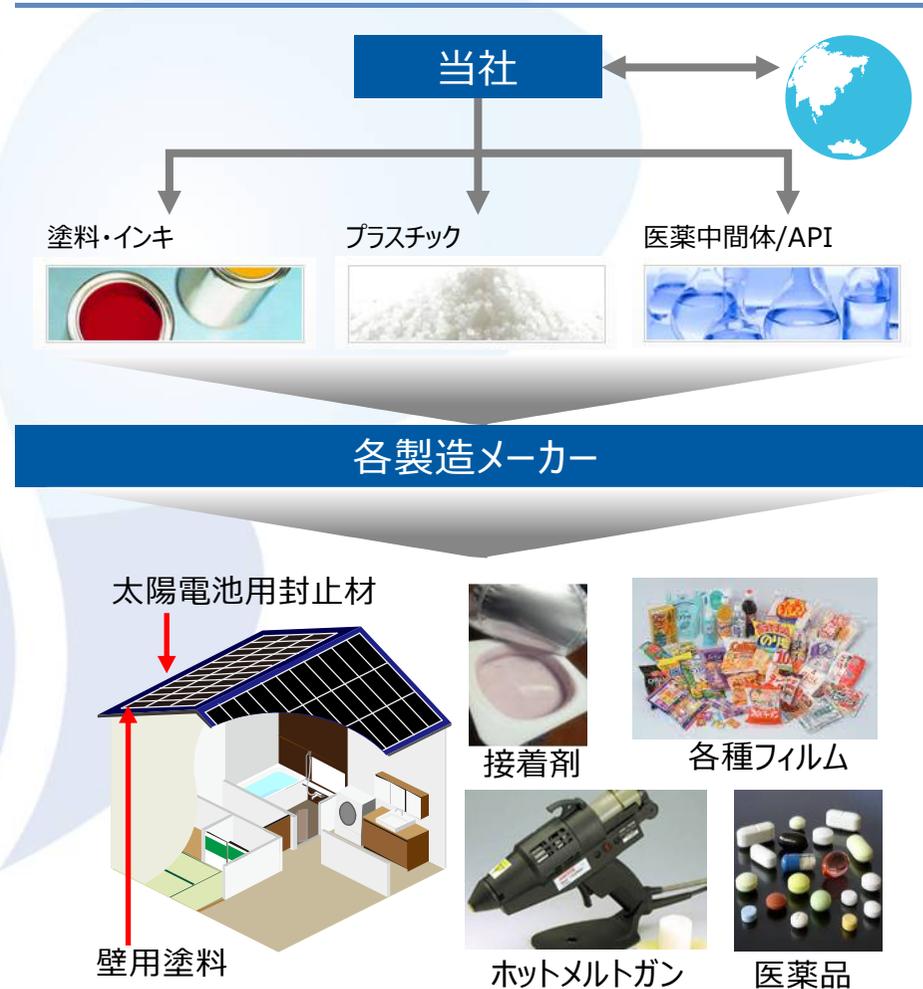
化学品事業部

主要取扱商材	塗料・インキ用添加剤等、各種樹脂、高機能性フィルム、医薬中間体/API、電子材料、接着機器等
主要販売先業界	化学、建材、自動車、電子機器 等
主要用途	塗料、インキ、プラスチック、フィルム、医薬等
注力分野	医薬中間体/API、高機能性フィルム

特徴・強み

- 高付加価値のファインケミカルを取り扱う
- 医薬中間体/API、太陽電池関連、環境対応型商品など、医薬、エネルギー、環境向けにライフサイエンス商品も展開
- 優れたロジスティックノウハウでの物流サービス、在庫販売及びきめ細やかな技術サービスを提供
- 海外仕入先にてトレーニングを受けた営業員による高付加価値商品の提案、用途開発ならびに技術支援

取扱い商材例とその最終製品例



主な仕入先	主な取扱商品	特徴
Shamrock	各種ワックス	インキ・塗料用の高性能ワックス
東洋紡	各種フィルム	ナイロン、PET他高機能フィルムの幅広い品揃え

産業資材事業部

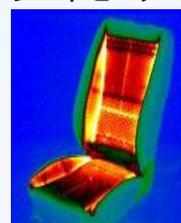
主要取扱商材	自動車シート用本革、シートヒーター、ランバーサポート、センサー等
主要販売先業界	自動車関連
主要用途	自動車用内装部品（主として高級車）
注力分野	エアバッグ用センシングデバイス、空調シート（温・冷風）

特徴・強み

- 新車の開発段階からデザインの提案や性能開発・改良に参加
- 受注→開発→立ち上げ→量産管理→旧型補給品対応 まで一貫して対応する体制
- 自動車メーカー及びTier1との深い関係構築
- 皮革シートの厳しい納入基準をクリア
- 契約獲得できればその生産期間は売上が見通しやすい

取扱い商材

シートヒーター



ランバーサポート



レザーシート



シートセンサー



シート用モーター

主な仕入先	主な取扱商品	特徴
GST/Seton Autoleather	自動車用の本革	デザインから自動車メーカーと共同開発
Gentherm	シートヒーター	カーボンファイバー仕様の市場を独占
L&P Group	ランバーサポート	高い技術力で世界市場で大きなシェアをもつ

機械環境事業部

主要取扱商材	ペレットミルおよび関連部品、木質バイオマス関連機器
主要販売先業界	<ul style="list-style-type: none"> ● ペレットミル；飼料、エネルギー、リサイクル ● 木質バイオマス関連機器；地方公共団体等
主要用途	<ul style="list-style-type: none"> ● ペレットミル；飼料製造、固形燃料（ペレット）製造 ● 木質バイオマス関連機器；電力、熱供給
注力分野	木質ペレットガス化熱電供給装置

特徴・強み

CPM社製ペレットミル

- 日本総代理店として60年以上の歴史
- 飼料用ペレットミルのシェアは8割以上
- メンテナンス部隊による保守点検
- 自動制御装置のソフト開発およびカスタマイズ化で他社の輸入品と差別化

木質バイオマス関連機器

- 独ブルクハルト社製。木質ペレットとのシナジー効果を期待
- 再生エネルギー利用、地域振興の政策意義

取扱い商材



CPM社 ペレットミル



各種ペレット



ブルクハルト社 熱電供給ユニット



ブルクハルト社 ガス化ユニット

主な仕入先	主な取扱商品	特徴
CPM	ペレットミル	<ul style="list-style-type: none"> ● 飼料、餌料においては固形化により自動給餌が可能 ● 保管と輸送費の節減が可能
ブルクハルト	木質ペレットガス化熱電供給装置	<ul style="list-style-type: none"> ● 再生可能エネルギーとして、熱電供給が可能

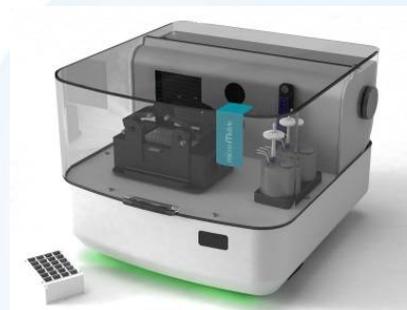
科学機器事業部

主要取扱商材	各種検査・試験機器（摩擦試験機、金属分析器、ガス分析計、耐候性試験機、バイオセンサー、表面物性試験機等）・医療機器
主要販売先業界	国立研究所、防衛省、大学、石油、化学、自動車、製薬等
主要用途	研究開発、品質管理、判別、危機管理
注力分野	バイオリアクター、医療機器

特徴・強み

- 特定の分野ではなく、公官庁、民間企業とも幅広い分野に顧客を有する
- 海外の先端技術を有する多くのメーカーの優れた商品を国内に輸入、販売を行う
- 保守サービス専門子会社を保有している
- 自社ブランド商品の開発と輸入機器のカスタマイズを得意とする

取扱い商材



バイオリアクター



ガス分析装置



耐候性試験機



摩耗粉分析装置

主な仕入先	主な取扱商品	主な仕入先	主な取扱商品
FALEX	摩擦試験機	Q-LAB	耐候性試験機
SPECTRO INC.	潤滑油劣化診断機器	PICARRO	温室効果ガス・同位体比分析計
PRESENS	非破壊酸素濃度計	ASI	二次イオン質量分析計

海外現地法人

	ゴム	化学品	産業資材
北米地域	Sanyo Corporation of America (米国)		
	Sun Phoenix Mexico (メキシコ)		
アジア地域	三洋物産貿易(上海)有限公司(中国)		
	Sanyo Trading Asia Co., Ltd. (タイ)		
	Sanyo Trading(Viet Nam)Co., Ltd. (ベトナム)		

三洋物産貿易(上海)

主力商材

- 自動車内装用部材
- 化成品

注力分野

- リチウム電池材料
- 工業用接着剤



Sanyo-Trading Asia(タイ)

主力商材

- 自動車向けゴム原材料
- 自動車内装用部材
- 化成品

注力分野

- 高機能電材添加剤
- アジア複数現地法人との連携



Sanyo Corporation of America (米国)

主力商材

- 高機能性フィルム
- 吸水性ポリマー
- 自動車内装用部材
- ゴム副資材

注力分野

- 高付加価値フィルム
- メキシコ現地法人との連携



業界での信用力・対応力

70年超の歴史で培った厚い信用力と
経験値に基づく高い対応力が強み

海外の魅力ある商材

海外有力メーカーの商材を多数
取扱い、高い技術サービスも併せ持つ

高付加価値,
ニッチ

充実した海外網

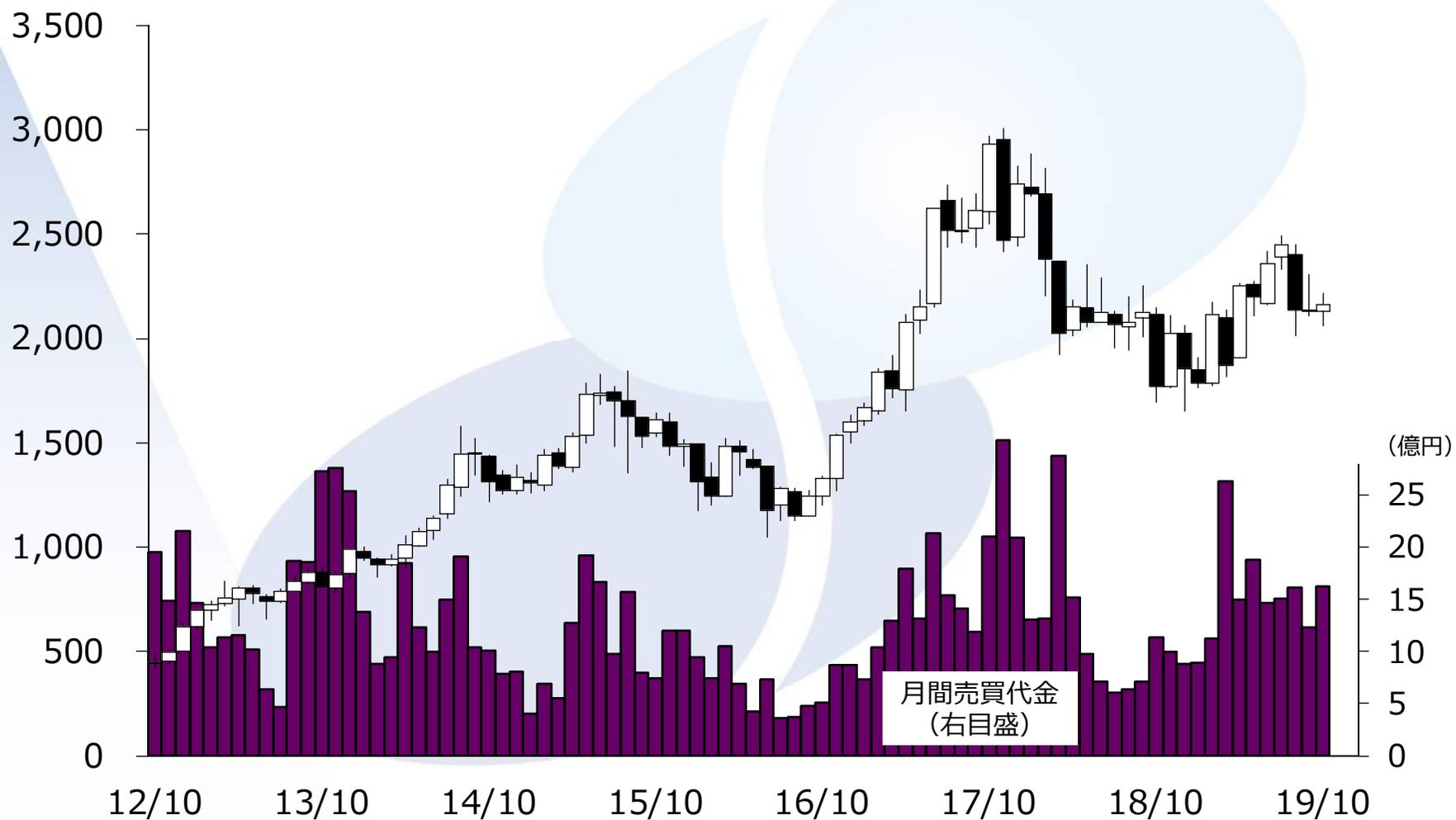
海外10拠点を活用した情報網と
グローバル取引ノウハウの蓄積が強み

盤石な財務基盤

堅実な経営と着実な成長により、
実質無借金経営

上場来の株価推移

参考資料



IRに関するお問い合わせ先

三洋貿易株式会社 経営戦略室長 大谷 隆一

電話 : 03-3518-1111 e-mail : ir@sanyo-trading.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。